

見学の感想

**大学医学部附属病院 **医師

【平成**年**月**日から**日の**日間見学】

先日は大変お世話になりました。

お忙しい中、スタッフの方々にはとても丁寧にご指導頂き、短期間ではございましたが非常に勉強になりました。貴重なお時間を割いて頂き誠に有難うございました。

今回、**知人**のご紹介もあり、貴院の在宅医療への積極的な取り組みに高い期待を持って見学に伺いましたが、実際非常に素晴らしい診療内容に感動しきりでした。

在宅で課題になりやすい、病診連携や良性疾患ターミナルの対応などについても、各スタッフが患者さんにしっかり近づくことでよりよい解決への道がきちんとみえていました。

また、多くの施設ではマンパワーや時間的制約など患者さんの手前にある様々な障壁を前に立ちすくんでいますが、貴院ではカルテの電子化や本当の意味でのチーム医療を展開することによって、そうした本質の手前にある問題にも柔軟に対応されその結果、直接患者さんに関与する課題に十分に取り組んでいるように思いました。

私は老年科や ER での研修を通して在宅医療に携わりたいと思うようになりました。病院での生活は急性期を除けば非常にストレスの大きな環境です。殊に高齢者やターミナルの患者にとってはより強いストレスになると思います。(若者でさえ、入院生活というのはかなりのストレス。)しかし、現実には病院のベッドの多くを占めているのはそうした患者さんです。最もストレスに弱い人達が一番過酷な状況にいななければならない現状に非常に疑問を感じました。そしてそうした患者の多くは身近な医療者とのコミュニケーションが非常に希薄な場合が多いようです。もしも在宅で療養するという道を選べればご本人にとってもご家族にとっても遥かに充実した時間を過ごせると思える症例は少なくありません。こうした現状を目の当たりにして、在宅医療という選択をもっと身近にできないか、在宅医療のハードルはもっと低くならないか…と考えるようになりました。

また、今はどうしても一般感情として、病院に依存する傾向が強いのが現状で、入院すれば安心だから…という考え方が根底にあるように思います。しかし、病院における診療や看護の中で本当に専門性の高い内容はごく一部であり、自宅でご家族やヘルパーさんが対応できる部分もかなり多く、むしろ自宅の方がきめ細かい対応ができる場合もあると思います。介護する側もされる側も「自分で見る(看てもらう)ことができるんだ!」と自信を持つことができれば病院と自宅の機能は逆転し、病院は必要最低限のサポート役に徹することができるのではないかと思います。特に高齢者やターミナル患者に関してはそうした医療環境が可能であるように思います。

このように、患者さんや病院の抱える問題に対して在宅医療の果たす役割は非常に大きいと痛感し在宅医療に貢献したいと思うようになりましたが、今回貴院の取り組みを拝見して、私が在宅医療に期待する多くのことをスタッフの皆様が実際に行動で示しておられたことが非常に嬉しく、また大変勇気を頂きました。在宅医療を志す勇気を新たにすることができました。本当に有難うございました。心より御礼申し上げます。

多くの困難もおありとは存じますが、どうかこれからも在宅医療の可能性を広げ、皆様の熱意ある取り組みを続けて頂きたいと思います。私自身も今後、貴院スタッフの皆様と同じフィールドでお仕事させて頂ける日が迎えられることを切に願っております。今後ともご指導下さいますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

皆様の益々のご発展とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

****年**月**日